

# 第14号

定価一年間300円

組合員の購読料は  
組合費に含む



発行

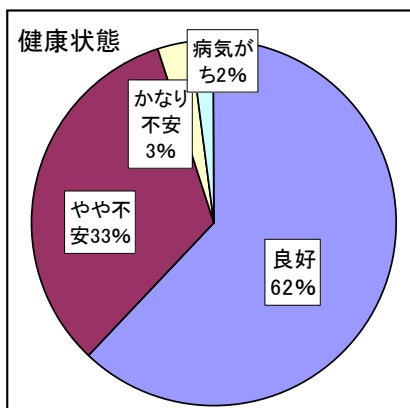
# 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町86-1

TEL 0139(52)0858 FAX(52)1490

発行責任者 白山 尚

E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp



女性教職員が対象だった同アンケートは、今年度は全職員を対象に実施されました。女性55%・男性45%、各年齢層から一定数の回答があります。(前号で詳細) また、回答は、教諭・養護教諭・栄養教諭や事務職員の

## 21年度教職員健康・生活・育児に関するアンケート

道教組と檜山教組の女性部がとりくむ同アンケートは、これまで管内21の職場から124名を集約、現場と教職員の実態を明るみにします。その概要を分載して紹介します。

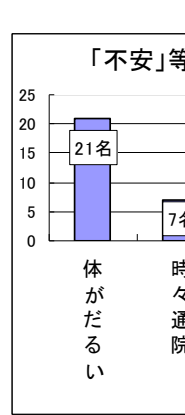


イメージ(本文と関係ありません)

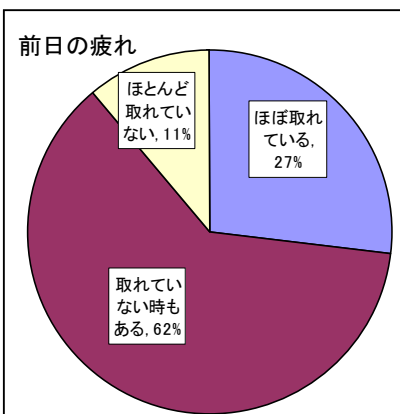
# 「健康不安」 4割弱

健康不安を訴える回答者の健康状態では、「体がだるく疲れやすい」は21人で17%、「通院している」は26人で21%になります。(グラフ下)

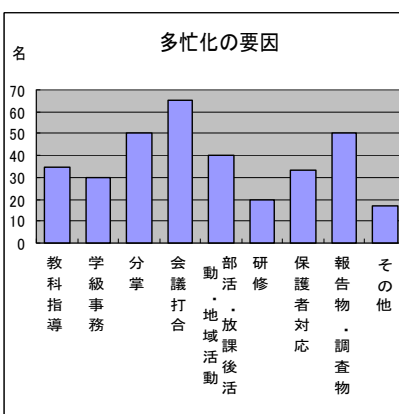
ほか管理職や支援員、公務補、スクールサポートスタッフの方々からも寄せられています。健康状態について、「不安」を訴える回答が47人で全体の38%を占めます。(グラフ上) 「かなり不安」「病気がち」が数人おり、いずれも通院し、「ほとんど疲れがとれていない」と回答します。



以下は44人で35%で、5時間以下が数人おります。前日の疲れについて、「取れない時もある」が77人で6割、「ほとんど取れていない」が13人で1割を占めます。(グラフ下)



多忙化の要因については、「会議打合」で65人、続いて「分掌」「報告物・調査物」が50人と並びます。「部活」が40人ですが、中学校教職員からの回答数53人を考慮すると、実際は8割弱が多忙の要因の一つに挙げていることを伺えます。「教科指導」35人、「保護者対応」33人、「学級事務」30人、「研修」20人と続きます。(グラフ下) その他として記



述されるのは、コロナ対応や保健業務、ICTを始めとした新たな教育構想への対応、中体連など対外事業への対応、「不登校」対応などです。「外国語、個に応じた指導、ICTなど高まる要求に応え続けること」との記述があり、矢継ぎ早に示される課題を前に、困惑し、苦心する現場の姿が浮かび上がります。(次号につづく)

# 免許更新制廃止

中 教 審 会  
特 別 部



末松文科相「法改正したい」と表明=11月15日記者会見

中央教育審議会(中教審)の教師の在り方特別部会は11月15日の会合で、教員免許更新制を廃止し、新たな研修制度の創設を求める「審議のまとめ」(以下「まとめ」)を了承、末松信介文科大臣に報告しました。大臣は「法改正を含め、前にすすめていきたい」と表明しました。「まとめ」は、教員免許

# 新たな研修制度 受講履歴の管理 奨励の義務づけ

更新制導入から10年以上が経過し、劇的に社会が変化しつつあるとして、変化に応じた「新たな教師の学びの姿」を構想します。「学び続ける教師」「継続的に学ぶ主体的な姿勢」「個別最適な学び」と協働的な学びなどが列記されます。

「将来の姿」について、当人の意欲や関心を基本としつつ「任命者や服務監督者のニーズとも調和したものとなること」が求められるとします。こうした文脈で登場するものが、「研修履歴の管理」と「受講奨励の義務づけ」です。「一人一人の教師が『現在の姿』を自覚し、任命権者や服務監督者・学校管理職等のニーズも踏まえ『将来の姿』を適切に設定するため、任命権者や服務監督者・学校管理職等が①教師の研修受講履歴を記録・管理していくこと、②適切な研修を奨励することが必要と説き、研修受講の奨励を義務づける検討を求めます。

教師と任命・管理者との「対話」を強調しますが、奨励が義務づけられれば、実質的な「強制」になりかねません。さらに黙過できないのは任命・管理者等が期待する水準の研修を受けていると認められない場合は「職務命令」もありえるとし、従わなければ「懲戒処分」の措置も考えられるとしていることです。「まとめ」は教師の主体性や自律性を盛んに掲げますが、こうした「仕組み」が被されるもとは逆効果です。「免許更新制を発展的に解消」としますが、更新制は即凍結し、研修制度は慎重に検討されるべきです。

# 実感

# 子どもは育つ

11月2日、檜山教組の今年度3回目となる各町支部代表者会議が行われ、この間の様子や課題などを交流しました。学習発表会や文化祭が実施でき「子どもたちが育つ姿を実感」という発言が共通して出されました。交流の概要を紹介します。

## 文化行事実施

「1学年1演目」と簡略されたが実に見応えのあるものだった。「行事で子どもは育つ」ということを改めて実感した。親やPTAも活気づき、充実したひとときだった。こう振り返るのは、ある町の小学校の先生です。同じ町内の中学校の先生も「1学年1演目」と簡略されたが実に見応えのあるものだった。「行事で子どもは育つ」ということを改めて実感した。親やPTAも活気づき、充実したひとときだった。こう振り返るのは、ある町の小学校の先生です。同じ町内の中学校の先生も



### 第3回支部代表者会議Zoom

## 決定過程が見えない不安

町内の学校運営や教育活動を進め、決定過程が見えないことによる不安や苦悩を訴える声がありました。前述の発表会行事で、町内の学校間で揃えて実施が求められることが多い反面、コロナ禍における発表会の方法では統一感がなく困惑してしまうという訴えが出されました。

また、「教職員の負担軽減を理由とした大胆な施策がいきなり下ろされ、誰が言い出しのか分からず困惑してしまう」といった発言もありました。その施策について、現場で議論し検証するゆとりもなく、事が進んでしまえば、「大事な何かが失われていくのでは」という怖さを感じると言います。

トップダウンの弊害の深刻さは、これまで多くの事例が証明してきました。学校現場で「参加と共同」の土壌が風化しつつ

一方、町内の学校間で、合唱ができていたり、できなかったりなどといった開催形態に、大きな温度差があったという実態も報告されました。

また、人数制限で「子どももどろろのがんばりを見合ったりするといった学び合いが少なく残念な面も。なんとか終息してほしい」との発言があり、本来の活動ができる環境の回復は依然として切実です。

## 改憲騒ぎも2世論誘導

総選挙の結果、憲法を改めるという「改憲」勢力が、発議に必要な3分の2を大きく上回りました。ここに至って、にわかに改憲論議がかまびすしくなってきました。

選挙翌日に首相は「党是である憲法改正に精力的に取り組む」と発言、改憲原案の審査権限を持つ憲法審査会の開催と始動が目論まれています。すでに、週例も視野に定例開催での「合意」づくりが進行しています。

# NO

法制は、米国の戦争に加担させられる仕組みです。その発動と正当化をはかるため、改憲動機が高まっていると言えます。コロナ禍は「自宅放置」など政治災害ともいえるべき惨状を露わにしましたが、それを悪用して「緊急事態条項」を改憲の突破口とする動きも活発です。

数に頼んで、来年の参院選の投票に合わせて改憲案の国民投票を実施すべきといった発言も飛び出します。しかし、多くの



憲法施行時に使用された社会科の教科書

国民が望むのは、雇用や営業、社会保障、コロナ対策など命と生活を守ってくれる政治です。「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならぬ」(12条)。重大な局面に際し、ともに改憲NOの声をあげていくことを呼びかけます。

### 檜山合研 山根さん 実践報告 読者感想



本紙で報告を読まれた先生から感想が寄せられました。紹介します。

「やねにねこがねています。どこから のぼったのか しりませぬ。きょうはとうとうしりませぬ。うらの かきの木から のぼったのです。」  
私ごとですが、大正から昭和初期

### 綴り方教師の教えに重ね

にかけて、高知の綴り方教師、小砂丘忠義が綴り方教育雑誌にとりあげた、この小学校1年生の綴り方がずつと心に残っています。それを紹介してくださったのが、檜山の生活綴り方を実践されていた、小林勝行先生でした。小林先生は、この綴り方の良さがわからない私を見て、こんな話をしてくれました。「小砂丘忠義は、『これこそ、まさに

## 探求の過程鮮やか

生活綴り方です」と絶賛したんです。それはね、知的好奇心から探究心へとつながり、やがて発見へとつながっているのがこの綴り方からわかるでしょ」と。そして、「しっかりと現実を見つめて、そこから生きる力を育てていくということなんだよ。生活綴り方は。」と話されました。生活綴り方教育に興味をもっていった私は、ちよつと大げさにい

うと、教師としての魂を入れられたような感じがしました。中で山根実践を拝見しました。中でも、子どもたちの綴り方に興味をもちました。その紹介された綴り方のどれもが、現実を見つめて、そこから生きる力が芽生えているように感じました。そして、その探求の過程には、小砂丘忠義氏が絶賛した「やねにねこ…」の「気づき」↓「疑問」↓「知的好奇心」↓「発見」↓「表現」というものがあるように思